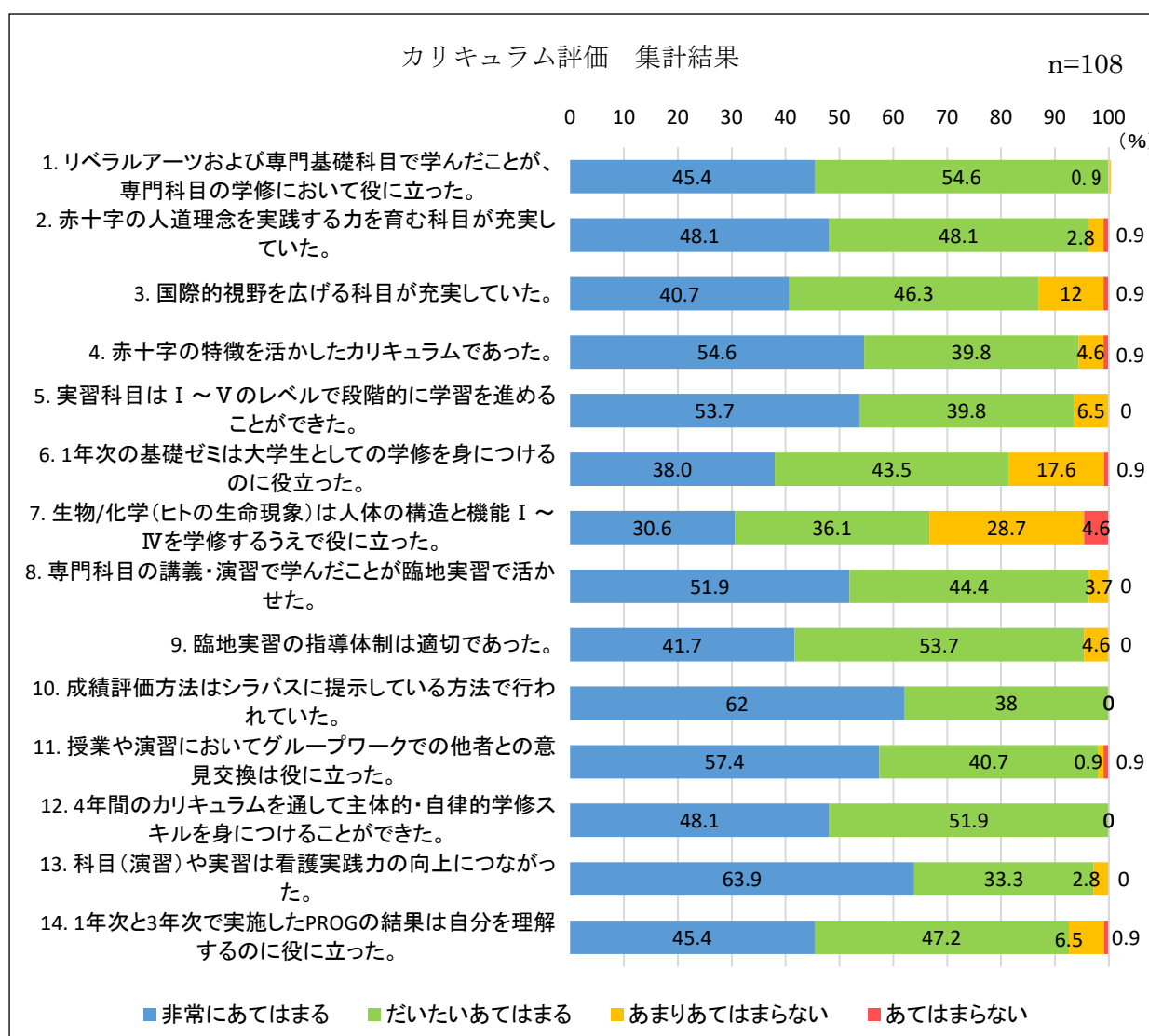


2022 年度 卒業生アンケート結果

対象 19 期生 118 名（令和 4 年度卒業予定者）
 調査期間 2023 年 2 月 14 日（火）～2023 年 3 月 22 日（水）
 方法 Forms によるアンケート調査
 回収率 91.5%（回答者数 108 名）

1. カリキュラム評価について

概ね評価は高く、特に「10.成績評価方法はシラバスに提示している方法で行われていた」「12. 4 年間のカリキュラムを通して主体的・自律的学修スキルを身につけることができた」は、評価が高かった。理由として、4 年間を通して自主的に学ぶことや意見が出せるようになったことを実感しているとの記述があった。評価が低い項目は、「7. 生物/化学（ヒトの生命現象）は人体の構造と機能 I～IV を学修するうえで役に立った。」であり、“あまりあてはまらない” “あてはまらない” の合計が 33.3%であった。理由として、高校の復習でしかない、文系だったため難しく感じた、人体を学ぶ上で生物/化学の講義を関連付けたことはないとの記述があった。

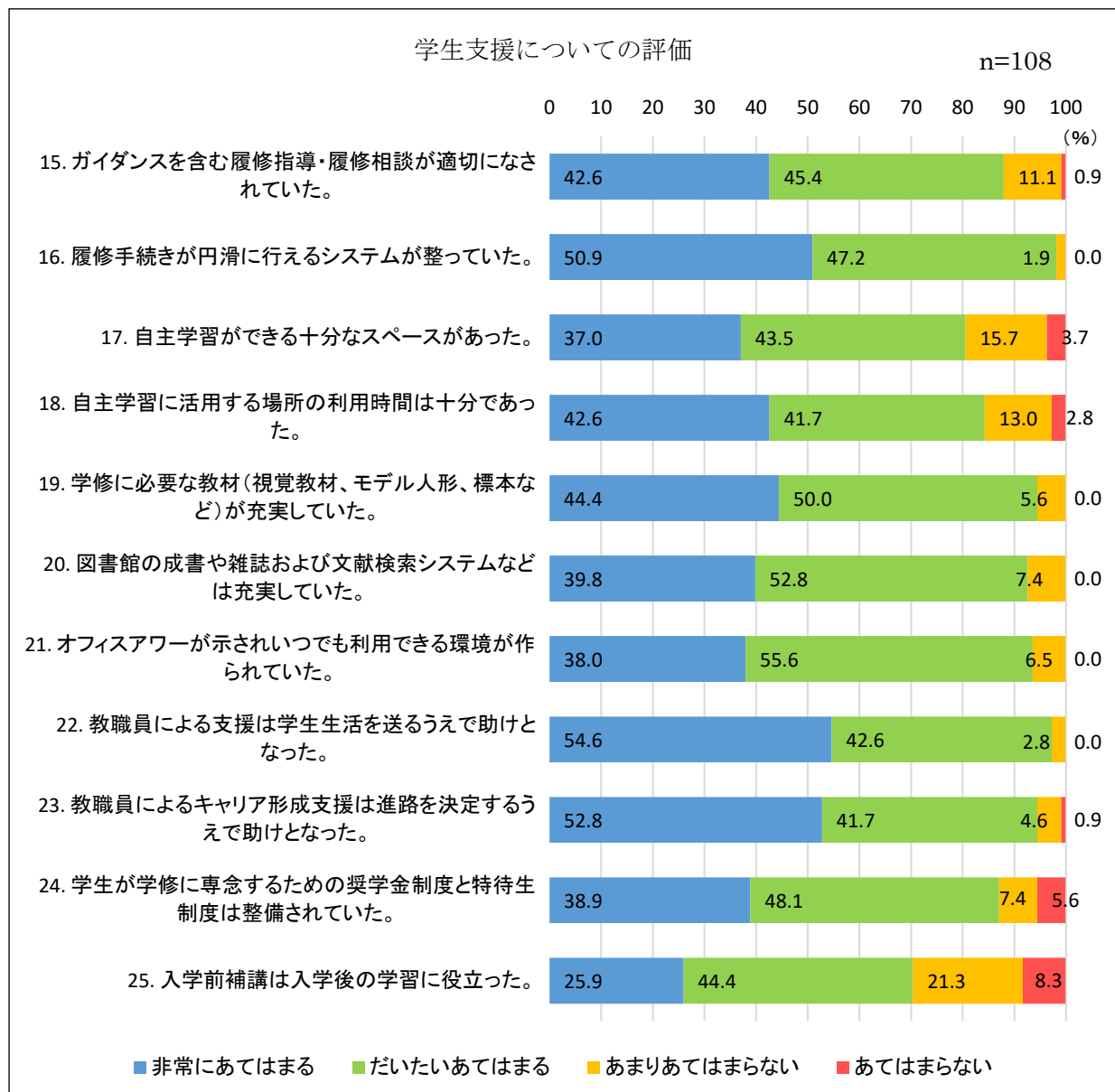


自由記述の抜粋

- ・リベラルアーツ専門基礎科目や人体の構造と機能に関しては、役に立った理由として、基礎があることにより、学習の広がりを感じることができ、一連の流れで学ぶことができたと感じたとの意見があった。
- ・赤十字科目の充実に関しては、赤十字の理念、実際の活動状況について理解することができた。その理念を基に自分の看護観を考え、他の学生とも意見共有ができた。
- ・国際的視野を広げる科目の充実に関しては、学ぶことができたとの評価がある反面、国際看護の科目は少なく、コースに入らなければ学ぶ機会が少ないとの意見もあった。
- ・実習は段階を踏んだ内容になっており、徐々に主体的な学修が行えるようになった。しかし、コロナの影響を受け、実習時間が減少しており、学内で演習等行ったことを臨地実習で活用できたという実感は持てなかったとの意見もあった。
- ・基礎ゼミでは、同級生との交流ができ、レポートの書き方や文献検索の方法を学べた。
- ・専門科目の学修は実習に生かすことができた。OSCEは、ほかの学年でも行ってほしいとの要望があった。
- ・臨地実習の指導体制は概ね良いとの評価であったが、教員によって指導方法が変わったり、施設によって教員が不在になるなど体制が異なることで、不安や不満があった。
- ・評価方法は、各科目で最初に説明があり、シラバスに沿って行われた。
- ・グループワークでは他者の意見を聞く機会になったり、司会等を経験する機会になり、スキルアップの役立った。
- ・主体的・自律的学修スキルは4年間で身についた。
- ・看護技術は学内の演習で学ぶことができたが、実習機会が少ないことや実践する機会が少なく、身についたかどうか不安を感じているとの意見があった。
- ・PROGは、自己の振り返りや就職活動に活用できた。

2. 学生支援について

概ね評価は高いが、「25. 入学前補講は入学後の学習に役立った。」はネガティブな評価が29.6%みられた。理由について（自由記述）は、生物化学の内容が高校で学んだ内容であり必要性を感じない、入学後に振り替えることはなかったという意見があった。看護の基礎を学びたかったとの要望もあった。友人作りの場になったとの意見が多かった。



自由記述の抜粋

- ・ガイダンスの評価はおおむね良いが、履修指導に関して評価が低い学生は、相談したことがないとの意見であった。
- ・履修登録では、システムエラーで入力ができなかった経験をした学生の評価が低かった。
- ・学習環境については空調が利かないとの意見や、場所はあるが、他学年が一緒になるとスペースが足りない、集中して学修できる場所がないなどの意見があった。自主学習に図書館を利用しなかったため、19時くらいまで開けてほしいなどの要望もあった。
- ・学修教材に関しては充実していたとの意見であった。
- ・図書館の書籍は充実しているが、外部から検索システムに入りづらいとの意見があった。
- ・教員のオフィスアワーは活用しておらず、事前にアポを取っていたため困らなかった。
- ・教員には、学修支援以外にも様々な相談をしており、就職活動の支援等も受けることができた。
- ・奨学金に関してはさまざまな制度がありとても助かったとの意見があった。ネガティブな回答は利用したことがない学生からの意見であった。

3. 評価

カリキュラム及び学生生活の支援体制に関して、概ね学生からの評価は高かった。

前年度の評価と比較して、回答の割合には大きな差は見られなかった。前年度に引き続き“あまりあてはまらない”あてはまらない“の回答が多い項目は「7. 生物/化学（ヒトの生命現象）は人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳを学修するうえで役に立った。」33.3%（令和3年度31.9%）、「25. 入学前補講は入学後の学習に役立った。」29.6%（令和3年度33.0%）であった。双方に生物/化学の講義に関して必要性を感じないとの意見が目立ったことから、講義内容・方法等の検討が必要である。学習環境について、自主学習を行うために教室を開放してほしいという要望があり、検討が必要である。